

項目		WTC移転(案)	耐震補強(案)	建替え(案)	備考
耐震化の実現		○最も早期に実現(H23)	○H24に完了予定	●最も時間がかかる(H27)	
交通の事情	住民の利便(所要時間)	鉄道 53分 道路 41分	鉄道 34分 道路 27分		市区町村役場からの所要時間を人口で加重平均、鉄道は最寄り駅から算出
	交通拠点からの所要時間	・関西国際空港	鉄道 59分(1,280円) 道路 48分	鉄道 74分(1,120円) 道路 54分	※ 所要時間は、「Yahoo路線情報」、「goo地図のルートガイド」を使い平日朝を想定して算出した。
		・大阪国際空港	鉄道 67分(690円) 道路 45分	鉄道 45分(650円) 道路 21分	
		・新大阪駅	鉄道 32分(310円) 道路 34分	鉄道 18分(230円) 道路 16分	
		・大阪駅	鉄道 25分(390円) 道路 22分	鉄道 15分(200円) 道路 8分	
		・なんば	鉄道 25分(270円) 道路 19分	鉄道 12分(230円) 道路 9分	
		・天王寺	鉄道 26分(390円) 道路 23分	鉄道 7分(230円) 道路 10分	
官公署からの所要時間	市町村	鉄道 64分 道路 71分	鉄道 45分 道路 50分	市町村役場からの所要時間を単純平均	
	府出先機関	鉄道 66分 道路 53分	鉄道 42分 道路 36分	7土木事務所、14保健所からの所要時間を単純平均	
	国地方支分部局	鉄道 28分 道路 21分	徒歩 5分	近畿経済産業局等からの所要時間	
庁舎環境	府民利用	わかりやすさ	○建物内で組織のかたちがわかりやすい新たなゾーニングが可能	●窓口が離れていてわかりにくい	○建物内で組織のかたちがわかりやすい新たなゾーニングが可能
		集約度	○分散庁舎が解消され、利便性が向上	●分散庁舎が解消されない	○分散庁舎が解消され、利便性が向上
		来庁者対応スペース	○オフィスレイアウトを工夫し、来庁者に配慮した対応スペースを確保できる	△来庁者対応スペースの確保に限界がある(部局ごとに差がある)	○来庁者スペースを拡充できる
		ユニバーサルデザイン	○必要な福祉対応ができており、改修も可能	●必要な福祉対応はしているがグレードアップには限界がある。(段差解消など)	○最新の福祉対応が可能
	シンボル性	○大阪圏を見渡せる立地と、大阪再生の象徴となる外観	○本館は歴史性が高く、風格のある重厚なデザイン	○新たな外観を提案できる	
	執務環境	フレキシビリティ	○室や課の間に壁のない大部屋となり、組織変化にフレキシブルに対応できる	△組織変化にフレキシブルに対応しにくい	○室や課の間に壁のない大部屋により、組織変化にフレキシブルに対応できる
		業務効率の向上	○照度、室温、天井高さなどの均一な環境が得られ業務効率が向上 ○部局間の移動が容易になる	△環境改善により、天井の新設・内装等の改修・遮音対策を講じても一定の限界がある	○照度、室温、天井高さなどの均一な環境が得られ業務効率が向上 ○部局間の移動が容易になる
		IT通信環境	○OAフロア、フロアダクトが整っており、配線の自由度が高い ○改修により光ファイバーを設置できる	●天井吊下げ配線のため、コンセント・LANケーブル等の改変に手間がかかる ○環境改善改修により、光ファイバーを設置できる	○OAフロアにより、配線の自由度が高い ○光ファイバーの設置・増設ができる
		一人当たりのスペース	●執務室 約6.4㎡/人	●執務室 約6.4㎡/人	○執務室 7.5㎡/人
		通勤時間	●片道20分程度増加 (通勤手当の増加見込み:約2億円 年月の経過により影響額は低減)	○現状どおり(変更なし)	○現状どおり(変更なし)